

奈良が好きです。とにかくここ数年、足繁く奈良を訪れています。もともと旅行は大好きで、20代の頃はヨーロッパの名立たる美術館を巡り、ギリシア彫刻をはじめ、やれミケランジェロだロダンだと気触れまくってました。

そして現在、御開帳情報からねらいを定め、仏像に会いに奈良へ向かいます。

何故こんなにも仏像に惹かれるのだろう、と自分自身で不思議に感じていました。周囲の人からは「歳をとった証拠」と言われ、そうなのかな、とも思いましたが、何か釈然としないまま、理由はあるんだけど文章化できないまま、時が過ぎていました。

そんなある日、まさに目から鱗の本と出会いました。私の疑問の答えが明確な文章となって表現されていました。それが『古寺巡礼』です。

この本は、著者と辻が1918(大正7)年5月に奈良へ旅行した時に書いた、いわゆる旅日記です。奈良の仏教美術の至宝を紹介しつつその印象が綴られていますが、その感激ぶりは、ちょっとオーバーかな、と感じるほどで、とにかく熱く語られています。

なんと言っても和辻と私の共通点は、一宗教的に仏に帰依したというのではなく、仏教の精神を生かした美術の力にまいったーというところなんです。

一比較は少し困りますが、しかしやや境遇の似た希臘の神像を取って考えて見ると、我々はその芸術的価値を比較するよりも、まず、二つの異なった性質の芸術があることに驚かされるのです。即ち人間の姿から神を造り出した芸術と、神を人間の姿の内に現れしめた芸術とです。前者に於ては芸術家が宗教家を兼ねる。後者に於ては宗教家が芸術家を兼ねる。前者は人体の美しさの端々に

神秘を見る。後者は宇宙人生の間に体得した神秘を、人間の体に具体化しようとする。一

紹介した部分はほんの一部で伝えきれないかもしれませんが、私が仏像に惹かれる理由はコレだ!と、私が表現できずにいたことを言葉にするとコレだ!と、驚喜しました。

今では、20代の時のヨーロッパ気触れも、私の人生における仏教美術への伏線だったのかも、と考えています。

この本については、この他にも特筆すべき箇所、紹介したい点はいくつもありますが、残念ながら紙面が足りず書ききれません。

出版されて以来、数多くの人々を奈良・大和路の旅へと誘ってきた『古寺巡礼』。仏教美術に関心があって未読の方、奈良への旅行を考えている方はぜひ御一読を!!それ以外の方も、和辻と私(?)の、感動と情熱を確かめてみてください。

※『古寺巡礼』は訳あって改訂の手を加えられた版が広く知られてきましたが、近年初版を復刻したものが出版されました。他の版では改めたという率直な感想と純粋な物言いで、さらなる情熱と人柄を感じることが出来ます。私としてはその『初版 古寺巡礼』の方を、よりオススメします。

企画管理部 企画協力班 吉田祐子



図書館からのお知らせ



INFORMATION

臨時休館のお知らせ

宮城県図書館では、図書館ネットワークシステムの更新および館内作業のため、臨時休館します。これに伴い、本館ホームページでの蔵書検索や予約などにつきましては、ご利用できません。なお、返却は東側玄関脇の返却ポストをご利用ください。紙芝居や大型本、視聴覚資料は開館してから直接カウンターへお返しください。

ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

- 休館期間** :2月18日(火)～28日(金)まで
なお、3月1日(土)は、13時より開館いたします。
- お問い合わせ**:総務班 TEL:022-377-8441

平成26年度図書館ボランティアを募集します。

宮城県図書館では、平成26年度ボランティアを募集します。

- 対象・定員** :週1回以上活動可能な18才以上の方(高校生を除く)、80名程度、当館主催ボランティア研修受講必須)
- 活動期間** :平成26年4月～平成27年3月

- 活動内容** :書架整理、視聴覚資料整理、図書館案内、音訳、読み聞かせ
- 応募締切** :平成26年2月16日(日)
- お問い合わせ・お申し込み**:企画協力班 TEL:022-377-8444

展示室からのお知らせ

現在、本館2階展示室では、明治の初めから現在まで、県内で発行された新聞の中から、時代の流れや地域の動きを伝える紙面を中心に紹介する、特別展『ふるさと、その日―新聞にみる懐かしのみやぎ―』を開催中です。1874(明治7)年の『官許東北新聞』創刊号や、広瀬橋完成を伝える1909(明治42)年の『河北新報』など、明治期に発行された貴重な新聞の実物もご覧いただけます。ぜひ、お立ち寄り下さい。

- 開催期間** :平成26年2月16日(日)まで
- お問い合わせ** :新聞雑誌室 TEL:022-377-8449
- 平成26年3月からは、平成25年9～10月に開催したプレ展示に引き続き、SF作家小松左京と震災の関わりについてご紹介する特別展『小松左京と震災(仮)』を開催予定

表紙エッセイ

著者紹介

千田基嗣(気仙沼市本吉図書館館長)

気仙沼高校、埼玉大学卒業後、株式会社JUNに2年間勤務、原宿で販売なども経験後、気仙沼市役所へ。はじめ図書館で、館外奉仕中心に4年間勤務、観光課などを経て、県市町村職員研修所長に派遣、

合併後の本吉図書館長。詩誌霧笛同人(編集担当)、県詩人会会員、県芸術協会会員。平成24年度県芸術祭知事賞(詩部門)。

ことばのうみ

題字 作家・高田 宏氏

本誌タイトル「ことばのうみ」は、本館第8代館長・大槻文彦編著による日本最初の近代的国語辞典『言海(げんかい)』(1889～1891年刊行)に由来する。

第46号 2013年12月発行

編集・発行

宮城県図書館

〒981-3205
仙台市泉区柴山一丁目1番地1
TEL022-377-8441(代表)
FAX022-377-8484
ホームページ
<http://www.library.pref.miyagi.jp/>